



まほろばだより

2026
June
vol.57

第57号



● Contents ●

- Report1 学長・新センター長 ごあいさつ
- Report2 本学附属病院医局長の女性割合
- Report3 臨床医学教育主任の女性割合
- Report4 第15回女性研究者学術研究奨励賞 授賞式・受賞講演
- Information 1 令和8年度下半期研究支援員配置希望者募集

Report

1

学長・新センター長 ごあいさつ

奈良県立医科大学 「女性研究者・医師支援センター」の 更なる発展を期待して

奈良県立医科大学 学長 嶋 緑 倫

日頃より本学の「女性研究者・医師支援センター」の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本学は、平成23年に「女性研究者支援センター」を設置して以来、女性研究者がライフイベントと研究を両立できるよう、一貫した支援体制を築いてまいりました。令和元年には、医師のキャリア支援をより明確化するため、現在の「女性研究者・医師支援センター」へと名称を変更いたしました。本年（令和8年）4月1日からは組織体制をさらに強化するために、専任のセンター長を配置する新体制へと移行しました。

センターの基幹事業である「研究支援員配置事業」では、令和2年度から令和7年度までに22名の女性研究者を支援し、そのうち半数の11名が助教採用や講師・准教授への昇任を果たすなど、着実な成果を挙げています。臨床現場における女性医師の活躍もめざましく、常勤女性医師数の増加ならびに医局長等要職への女性参画が進展していることは大変喜ばしいことです。

一方で、准教授以上の教官職がまだ少ないという課題も残されています。本学医学科女子学生の割合が31.7%（令和7年度）と全国平均41%と比較して低く、絶対数が少ない要因もありますが、女性教職員数の少ない教室におかれましては、ぜひ教室全体で男女参画推進の機運を高めていただくようお願い申し上げます。

こうした課題の解決に向け、本年度4月より、本学の教育研究に関する最上位の審議機関である教育研究審議会にセンター長が参画することになりました。今後は、センターの活動や現場の声を大学の方針決定プロセスに直接反映させ、大学全体で課題を共有し、更なる発展へと繋げていく所存です。

これからの医療は、デジタル化や新たなテクノロジーの導入など、大きな変革の時代を迎えています。次世代の医療や研究のイノベーションを牽引するためには、多様な視点がかかせません。本センターはこれからも、女性研究者・医師のキャリア継続とステップアップを全力で支援し、多様性が真の強みとなるダイバーシティ環境の構築を目指してまいります。

皆様のさらなるご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



新センター長のご挨拶

須崎 康恵

平成26年10月 女性研究者支援センター 講師・マネージャー
令和6年6月 女性研究者・医師支援センター 准教授・副センター長
令和8年4月 同上 教育教授・センター長



このたび、女性研究者・医師支援センターのセンター長を拝命致しました。

本センターは平成23年の設立以降、女性研究者・医師の増加を目標に掲げ、1) 女性研究者・医師を対象とした研究支援、2) 男女共同参画およびダイバーシティ推進のための啓発・広報活動、3) 男女共同参画に基づくキャリア教育、4) ジェンダーに関する研究、5) 相談業務の5つを活動の柱としています。

法人の自主財源で運用を開始した平成26年度以降の10年間で、本学研究者の女性割合（H26年度24.5%→令和7年度29.8%）、医学科教員の女性割合（14.3%→19.2%）、常勤で働く女性医師数（84人→155人）、女性教員の競争的資金獲得割合（29.7%→49.5%）が増加する等、医師・研究者の男女共同参画は着実に進んでいます。今後、医学科教員の女性割合を早期に30%へ近づけられるように、関係各所と協力して上記の5つの活動を充実させて参ります。

皆さまには引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

奈良県立医科大学女性研究者・医師支援センター運営委員会 委員名簿

(令和8年6月1日現在)

役 職	氏 名
女性研究者・医師支援センター長	須崎 康恵
総務・経営 担当理事	西橋 奈穂
医学部長	堀江 恭二
疫学・予防医学 教授	佐伯 圭吾
腎臓内科学 教授	鶴屋 和彦
産婦人科学 教授	木村 文則
総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門（NICU） 病院教授	内田 優美子
在宅看護学 教授	小竹 久実子

奈良県立医科大学女性研究者・医師支援センター教職員名簿

(令和8年6月1日現在)

センターでの職名	氏 名	所 属
センター長	須崎 康恵	女性研究者・医師支援センター 教育教授
コーディネーター	裏山 悟司	生物学 講師
コーディネーター	長井 美奈子	消化器・総合外科学 学内講師

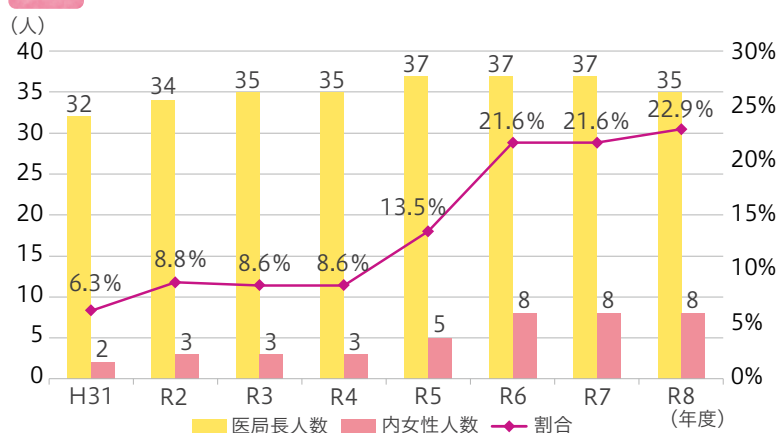
本学附属病院医局長の女性割合

本学附属病院では、各診療科に上司の拜命を受け、科の運営に関する業務を処理する医局長が選任されています。令和8年4月現在、28診療部と9中央診療施設に各1名、合計35名(2名は兼務)の医局長が在籍しています。令和8年、新たに2名の女性医師が医局長に就任し、女性医局長は8名となっています(表1)。女性医局長が在籍する8診療科のうち7診療科では、複数の女性教員(2名から6名)が在籍しています。また、5診療科では講師以上の上位職に女性が在籍しています。女性医局長の存在は、その診療科で女性医師の育成と活躍が進んでいることの一つの指標になると思われます。本学附属病院で医局長を務める女性医師は平成31年以降増加しており、医局長の女性割合も増加傾向にあります(図1)。若手女性医師の増加が進む中、男女ともに働きやすい医局運営を加速するためにも、今後益々、女性医局長が活躍されることを期待しています。

表1 女性医局長(令和8年4月現在)

診療科名	医局長名	発令日
リハビリテーション科	小林 恭代	2017年 9月19日
放射線治療科	三浦 幸子	2020年 4月 1日
小児科	長谷川 真理	2024年 4月 1日
皮膚形成外科	正 畠 千夏	2024年 4月 1日
糖尿病・内分泌内科	紙谷 史夏	2024年 4月 1日
産婦人科	岩井 加奈	2025年 6月 1日
眼 科	西 智	2026年 1月 1日
病理診断科	阪口 真希	2026年 4月 1日

図1 本学医局長の女性割合の推移



臨床医学教育主任の女性割合

令和2年以降、臨床医学教育改革の一環として「診療参加型臨床実習」の充実を図る目的で、各教室から教育主任が選任されています。当初から女性教員が多く選任されており、本学医学科の女子学生割合(令和2年度 27.6%)を上回る29.6%でスタートしています。その後も医学科の女性教員割合が20%に満たない中、臨床医学教育主任の女性割合は令和7年度を除き26%以上で推移しています(図2)。今年度4月、新たに1名の女性教員が臨床医学教育主任に就任し、女性臨床医学教育主任は8名となっています(表2)。女性臨床医学教室主任の存在は、これまで女性教員が本学の臨床教育に深く携わり、教育の多様性構築に貢献してきたことの一つの指標になると思われます。全国的に医学科に進学する女子学生は増加傾向にあります。男女共同参画推進の観点からも今後益々、女性の臨床医学教育主任が活躍されることを期待しています。

図2 臨床医学教育主任の女性割合の推移

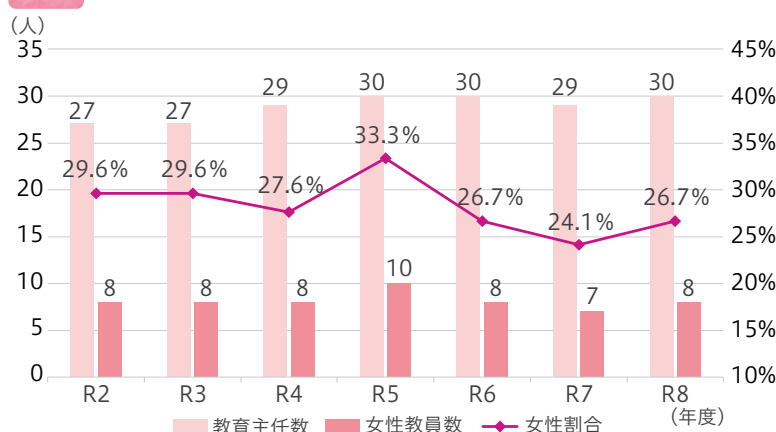


表2 女性臨床医学教育主任(令和8年4月現在)

講座名	職位	氏名	任命日
糖尿病・内分泌内科学	助教	樽松 由佳子	2020年11月19日
眼 科 学	准教授	西 智	2020年11月19日
放射線腫瘍医学	講師	三浦 幸子	2020年11月19日
法 医 学	講師	工藤 利彩	2020年11月19日
がんゲノム・腫瘍内科学	教育開発センター講師	吉井 由美	2022年10月 1日
産婦人科学	助教	岩井 加奈	2025年 6月 1日
消化器・総合外科学	助教	松尾 泰子	2025年 9月 1日
病理診断学	准教授	内山 智子	2026年 4月 1日

第15回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を開催しました



令和8年6月8日、第15回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を執り行いました。

第15回は、整形外科/地域医療支援・教育学講座の川崎佐智子講師が受賞の栄冠に輝きました。授賞式には整形外科講座の河村 健二教授が出席されました。嶋 緑倫学長から選考の講評・賞状等の授与が行われ、川崎佐智子講師が「頸椎症性脊髄症の痺れの可視化」について講演されました。



【川崎佐智子先生のコメント】

この度は、第15回奈良県立医科大学女性研究者学術奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。本研究は、河村健二教授、重松英樹准教授をはじめ、整形外科教室の先生方のご指導とご協力のもとに遂行することができたものであり、心より御礼申し上げます。また、受賞にあたりご支援を賜りました女性研究者・医師支援センターの皆様にも深く感謝申し上げます。本研究は、日常臨床における疑問から着想したものであり、いまだ道半ばではありますが、今後さらに検討を重ねることで、「痺れ」の本質の解明につながり、患者満足度の向上に寄与できるものと考えております。今後も、臨床と研究の双方に真摯に取り組んでまいります。



Information

1

令和8年度下半期研究支援員配置希望者を募集します

当センターでは、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントが原因で、一定期間、研究時間が十分に取れない常勤の女性研究者・医師（教員、診療助教、病院助教、研究助教）を対象に研究支援員を配置しています。令和8年度上半期は、診療助教1名、病院助教2名、臨床系教員4名、基礎系教員1名、看護学科教員1名の合計9名の女性研究者が本制度の利用を申請されました。令和8年度下半期（令和8年10月～令和9年3月）の希望者募集については、7月に学内一斉メール・学内専用HP等から案内予定です。制度の利用を新たにご検討されている方は、女性研究者・医師支援センターの須崎康恵センター長（内線2525）までお問い合わせください。

【編集後記】

この春から嶋緑倫学長の下、センターも新体制で活動を開始しています。本邦では、本年4月1日に男女共同参画社会の形成促進を強化する目的で独立行政法人男女共同参画機構が新設されました。国と地方が一丸となって意思決定過程への女性の参画を促進していくことが明記されています。本学におきましても、教育、臨床、研究の分野で更に多くの女性が意思決定に関わることができるように活動していきたいと思っております。

センター長 須崎康恵

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL：0744-23-8011（直通）
0744-22-3051（代）内線：2525
E-mail：jshien@naramed-u.ac.jp

